エコロジカルな回心　―すべてのいのちを守るため―

ロザリオの聖母修道院

2021 年 5 月の会員だより以来 2 度目の掲載となります。早いもので、あれから 3 年近くの月日が流れました。この度私たちは、毎年行なっている年度末の振り返り等を踏まえ、教皇様のご意向に少しでもよりよく添えますよう、また会の霊性に生きることができますよう願いながら、私たちなりに実践目標を見直し、新年度を励んで参りました。その拙い歩みを以下に述べさせていただきます。

Ⅰ　実践内容

1　当該年度の共同体の実践目標をポスターにして、院内の共同場所や各居室等に掲示し注意を喚起する。

2　毎朝食後、実践目標を皆で唱和し、意識を高めている。

3　毎朝、世界の平和を中心に祈るロザリオの後「すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り」（日本カトリック司教協議会認可）を唱えている。

4　植物関連の取り組み

・弱ったキンカンの木を長い月日をかけて再生し、正月に大きな甘露煮を味わった。

・その他種々の鉢植えや露地栽培の花々をたくさん育て、聖堂その他を飾った。

・廃棄せざるを得ない食材、落葉等をＥＭや堆肥として種々の野菜作りに役立てた。

・あじさいの鉢植え 20 余種を丹誠込めて育て、花名をつけて毎年ミニ展示会を開き、特に外出の難しい姉妹たちに喜ばれている。

5　ローソクの残渣の活用

ローソクの残渣はまとめて短いローソクに再生し、毎日の聖体訪問の時に使用する。

また色や模様をつけて祝祭日等に用い、それぞれの日によりよく祈りができるように配慮した。

6　食事関連

配膳されたものを感謝してきれいにいただく。

ドレッシング等はかけすぎないようにし、皿はきれいに果物の皮や古布で拭き取って洗浄の水、洗剤、労力の無駄を省く。

7　身の周りの整理整頓

特に静修の折には不用品等を整理し、共同体全体でそれらを一括処分した。

8　その他

電気、ガス、水、洗剤、ペーパータオル等の慎ましい使い方、古紙、裏紙、使用済み封筒等の再利用を心掛けている。

Ⅱ　見える化の実践

著しく傷つけてしまった自然環境の再生を願い、その表現として聖堂前の廊下の端に枯木を置

き、色紙で作った花や葉の裏に自分でエコ実践した事柄を書いて枯木に結び付け、いつの日かこのように葉が茂り花が咲くことを願って待降節、四旬節、聖母月のお捧げを行なった。（写真）また、教皇様の「飼い葉桶を見つめよう」のお言葉から、エコ実践の折、刻んだ藁を飼い葉桶に入れて少しでもふわふわした所にイエス様をお迎えできるようにした。

昨年10月4日アシジの聖フランシスコの祝日に教皇様は、回勅「ラウダート・シ」に続く使徒的勧告「ラウダーテ・デウム」を通して気候変動の危機的状況について「汚染および廃棄物の削減、そして賢慮ある消費の努力を一人ひとりがすることなくして、この地球的問題の解決はあり得ない」と、これまでの訴えを一層強く明言しておられる。マスコミでも、深刻化する気候変動の危機についてさかんに取り上げている。地理的に不利な小国の人々の「自分たちの国は早晩すっぽり海底に沈んでしまう」と叫ぶ悲痛な声。我が国においても「地球沸騰の時代になった」との国連事務総長の言葉のように昨夏の猛暑をはじめ様々な厳しい異常気象を体験している。私たちは地球家族の一員として、とりわけ神のみ心を行う働き人である修道女として、その連帯責任を痛感する。私たちは大きなことはできないが、ともにいてくださる主にすべてを委ね、聖母の取り次ぎを願いつつ、祈りやお捧げの実行をもってエコロジカルの回心に励んでいきたい。